



A61Q-0005/02	A	I	L	R	20060101
C12N-0005/04	A	I	F	R	20060101
A61K-0036/00	C	I	L	R	20060101
A61K-0036/16	C	I		R	20060101
A61K-0036/18	C	I	L	R	20060101
A61K-0036/185	C	I	L	R	20060101
A61K-0008/00	C	I	L	R	20060101
A61K-0008/96	C	I		R	20060101
A61P-0017/00	C	I	L	R	20060101
A61Q-0015/00	C	I		R	20060101
A61Q-0019/00	C	I		R	20060101
A61Q-0005/00	C	I	L	R	20060101
A61Q-0005/02	C	I	L	R	20060101
C12N-0005/04	C	I	F	R	20060101

File Segment: CPI  
DWPI Class: D21  
Manual Codes (CPI/A-N): D08-B09B

Derwent WPI (Dialog® File 352); (c) 2009 Thomson Reuters. All rights reserved.

---

[Select All](#)     [Clear Selections](#)    [Print/Save Selected](#)    [Send Results](#)    [Display Selected](#) **Format**  
**Free**

---

© 2009 Dialog LLC All Rights Reserved

(19)日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-64141

(P2001-64141A)

(43)公開日 平成13年3月13日 (2001.3.13)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
A 6 1 K	7/32	A 6 1 K	7/32
	7/00		7/00
	7/06		7/06
	7/48		7/48
	35/78	35/78	B

審査請求 有 請求項の数19 O L (全 7 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号	特願2000-201631(P2000-201631)	(71)出願人	391023932 ロレアル L'OREAL フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14
(22)出願日	平成12年7月3日 (2000.7.3)	(72)発明者	パルカル イレール フランス国 37210 ヴーヴレ, ローム
(31)優先権主張番号	9 9 0 8 5 6 9	(72)発明者	リシャール マルタン フランス国 37210 ロシュコルボン, ア レ デュ クロ デュ バン 8
(32)優先日	平成11年7月2日 (1999.7.2)	(72)発明者	クリストフ クールビエール フランス国 75015 パリ, リュ パルグ 5
(33)優先権主張国	フランス (F R)	(74)代理人	100109726 弁理士 園田 吉隆 (外1名)

## (54)【発明の名称】 未分化植物細胞の用途

## (57)【要約】 (修正有)

【課題】 臭気、特にヒトの汗に伴う臭気を効果的に抑えることができる物質の提供。

【解決手段】 ベリス (Bellis) 属の細胞を除く、イチョウ、カカオノキ、アキノタムラソウ又はチョウセンアサガオ等の属の植物に由来する未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物を、臭気を抑える薬剤として使用し、又ボディ用衛生組成物及び/又は脱臭組成物として化粧品等に導入する。更に、臭気を抑えるための美容処理方法に応用することができる。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ベリス(Bellis)属の細胞を除く、未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物からなる、臭気を抑えるための薬剤。

【請求項2】 臭気が体臭であることを特徴とする請求項1に記載の薬剤。

【請求項3】 臭気が動物又はヒトの汗によるものであることを特徴とする請求項1又は2に記載の薬剤。

【請求項4】 臭気がヒトの汗によるものであることを特徴とする請求項1ないし3の何れか1項に記載の薬剤。

【請求項5】 未分化植物細胞が植物全体又は植物の一部から取り出された植物材料から得られたものであることを特徴とする請求項1ないし4の何れか1項に記載の薬剤。

【請求項6】 未分化植物細胞が葉、茎、花、花弁、根、果実、種又は薬等の植物の一部から取り出された植物材料から得られたものであることを特徴とする請求項5に記載の薬剤。

【請求項7】 未分化植物細胞が葉から得られたものであることを特徴とする請求項5又は6に記載の薬剤。

【請求項8】 未分化植物細胞がインビボ栽培から得られるかインビトロ培養から取り出されるものであることを特徴とする請求項1ないし7の何れか1項に記載の薬剤。

【請求項9】 未分化植物細胞がインビトロ培養から得られるものであることを特徴とする請求項8に記載の薬剤。

【請求項10】 抽出物が、水性、アルコール性又は水性-アルコール性抽出物であることを特徴とする請求項1ないし9の何れか1項に記載の薬剤。

【請求項11】 抽出物が水性抽出物であることを特徴とする請求項10に記載の薬剤。

【請求項12】 抽出物が組成物に、組成物の全重量に対して0.01%～20%の範囲の量で使用されることを特徴とする請求項1ないし11のいずれか1項に記載の薬剤。

【請求項13】 抽出物が組成物に、組成物の全重量に対して0.1%～5%の範囲の量で使用されることを特徴とする請求項12に記載の薬剤。

【請求項14】 未分化植物細胞が、アキノタムラソウ(Salvia)、コレウス(Coleus)、マンネンロウ(Rosmarinus)、イチョウ(Ginkgo)、アサ(Cannabis)、イヌサフラン(Colchicum)、グロリオーサ(Gloriosa)、クサスキカズラ(Asparagus)、ダイズ(Glycine)、ウマゴヤシ(Medicago)、マンゴ(Mungo)、デイコ(Erythrina)、マツヨイグサ(Oenothera)、ケシ(Papaver)、アトローパ(Atropa)、チヨウセンアサガオ(Datura)、ナス(Solanum)、ボラゴ(Borago)、モクセイソウ(Reseda)、アムソニア(Amsonia)、ニチニチソウ(Catharanthus)、ヤボランジ(Pilocarpus)

s)、ジギタリス(Digitalis)、コフィア(Coffea)、カカオノキ(Theobroma)、ソケイ(Jasminum)、トウガラシ(Capsicum)及びアヤメ(Iris)の属の植物から由来することを特徴とする請求項1ないし13の何れか1項に記載の薬剤。

【請求項15】 未分化植物細胞が、イチョウ、カカオノキ、アキノタムラソウ又はチヨウセンアサガオの属の植物から由来することを特徴とする請求項14に記載の薬剤。

10 【請求項16】 生理学的に許容可能な媒体中に請求項1ないし15の何れか1項に記載の未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物を含有してなるボディ衛生用組成物。

【請求項17】 生理学的に許容可能な媒体中に請求項1ないし15の何れか1項に記載の未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物を含有してなる脱臭組成物。

【請求項18】 局所適用のためのものである請求項16又は17に記載の組成物。

20 【請求項19】 請求項16ないし18の何れか1項に記載の化粧品組成物を皮膚、毛髪及び／又は粘膜に適用することからなる、臭気を抑えるための皮膚の美容処理方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、組成物における、または組成物の調製のための、バリス属の細胞を除く、未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物の使用に関し、ここで抽出物又は組成物は臭気を抑えるためのものである。本発明はまたボディ用衛生組成物及び／又は脱臭組成物、並びに臭気を抑えるための美容処理方法にも関する。

## 【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】皮膚の解剖学的構造と生理機能は体のある部分と別の部分では変わる。しかし解剖学的部位に拘わらず、皮膚は、皮脂腺と汗腺を含み、その分泌物は、とりわけ、水分、アミノ酸、尿素、電解質及び／又は特定の脂肪酸からなる。これらの分泌物が、皮膚にコロニーを形成する、主として細菌の叢の集合に対する優れた栄養培地となるという事実はあるが、その成分は、ひとたび空気に接触すると、例えは酸化のような化学反応を受け、これがそれらを分解し、しばしば当惑させられる体臭の原因になる生成物を生じる。

【0003】汗腺から分泌される複合脂質の部分的な分解による天然の阻害剤(殺菌及び／又は静菌)であるある種の物質は揮発性であり、抗するのが通常の強い臭気を伴う。しかし、皮膚の分泌物が体臭の原因になる唯一のファクターではない。皮膚叢自体が部分的にその原因になる。化粧品においては、局所適用用の防臭製品を使用することが良く知られており、これらの製品は、一般に

不快な体臭を低減したり防止さえする制汗剤又は殺菌剤のような活性物質を含んでいる。

【0004】制汗物質は、汗の流れを制限する効果を持つ。これらは一般に、第1には皮膚に刺激的で、第2には皮膚の生理を変えることにより汗の流れを低減するアルミニウム塩からなり、これは満足すべきものではない。殺菌物質は、体臭の原因となる皮膚微生物叢の成長を阻害するものであるので、既に生じた汗の臭いに対して活性を持たないという欠点がある。これらの殺菌製品のなかで最も一般的なものはトリクロサン(5-クロロ-2-(2,4-ジクロロフェノキシ)フェノール)であるが、長期的には効果が十分ではない。

【0005】更に、デオドラントは微生物叢、主にグラム陰性菌を変更し、その結果、感染を引き起こすことがある。しかし、体臭の処理において、副作用のない効果的な化合物及び／又は組成物を提供することができることは尚も望ましいことである。

【0006】この点において、本出願人は、驚くべきことにまた予期しないことに、未分化植物細胞の抽出物が、臭気、特にヒトの汗に伴う臭気を抑えることができるを見出した。

#### 【0007】

**【課題を解決するための手段および発明の実施の形態】**よって、本発明の第1の主題は、組成物における又は組成物の調製における、ベリス(Bellis)属の細胞を除く、未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物の使用にあり、該抽出物又は組成物が臭気を抑えるためのものである使用にある。特に、本発明において、未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物は、体臭、より詳細には動物又はヒトの汗による臭気を抑えるために使用される。本発明は好ましくはヒトの汗を対象とする。

【0008】「未分化植物細胞」なる表現は、他の細胞とは独立に、それ自身で生存でき、特定の特化特性を何ら示さないあらゆる植物細胞を意味する。未分化植物細胞は、植物全体又は植物の一部、例えば葉、茎、花、花弁、根、果実、種あるいは薬から取り出された植物材料から得ることができる。未分化植物細胞は好ましくは葉から得られる。

【0009】本発明において使用することができる未分化植物細胞は、インビボ栽培で得られた又はインビトロ培養から得られた植物から得ることができる。「インビボ栽培」なる表現は通常のタイプのあらゆる栽培、すなわち土壌、戸外又は温室内での栽培、あるいは無土壌栽培を意味する。「インビトロ培養」なる表現は人工的に植物又は植物の一部を得ることを可能にする当業者に公知の一連の技術を意味する。インビトロでの植物細胞の成長中に物理化学的の条件により課される淘汰圧により、インビボで培養される植物とは異なり、一年中を通じて入手可能な標準化された植物材料を得ることができる。本発明においては、インビトロ培養から得られる未分化

(3) 4. 植物細胞が好適に使用される。

【0010】本発明において使用することができる未分化植物細胞は、当該分野において公知の任意の方法により得ることができる。この点については、E.F. GeorgeとP.D. Sherrington(Plant Propagation by tissue culture, handbook and directory of commercial laboratories: Exegetics Ltd 1984)により開示されている方法を挙げることができる。本発明において使用することができる培地は、当業者に一般に知られているものである。例として、ガンボルグ(Gamborg)、ムラシゲ-スクーグ(Murashige-Skoog)、ヘラー(Heller)、ホワイト(White)等々の培地が挙げられる。これらの培地の完全な説明は、「Plant Culture Media: formulations and uses」(E.F. George, D.J.M. Puttock及びH.J. George: Exegetics Ltd 1987, volumes 1-2)に見出される。未分化植物細胞は好ましくはムラシゲ-スクーグ培地での培養により調製される。

【0011】当業者に知られている任意の抽出方法を、本発明に係る抽出物を調製するために使用することができる。しかし、本発明において使用することができる抽出物は、任意の形態をとることができる。水性、アルコール、特にエタノール、あるいは水性-アルコール抽出物が特に挙げられる。本発明において、抽出物は好ましくは水性抽出物である。

【0012】本出願人により出願された仏国特許出願第95/02379号に記載された方法により調製された抽出物もまた使用することができる。しかし、第1工程では、植物材料を冷温条件下で水溶液中で粉碎し、第2工程で、懸濁液中の粒子を、第1工程で得られた水溶液から取り除く。この水溶液が抽出物に相当する。第2工程で得られた水溶液は、場合によっては第3工程で滅菌される。好適には、この抽出物を次の工程で凍結乾燥することができる。有利には、第1工程は、植物組織を単に凍結する操作(例えば-20℃又は液体窒素で-180℃)に置き換えることができ、続いて上述の第2及び第3工程を繰り返す水性抽出を行う。冷温処理を行うと、酵素活性を凍結させることができ、滅菌濾過により、環境の微生物による活性剤の劣化が避けられる。最後に、水ビヒクルはエキソビポレセプターと適合性があり、化粧品製剤化を容易にする。

【0013】植物抽出物が、抽出物の品質に害を及ぼすプロテアーゼ以外に、とりわけ上記抽出物の酸化の原因であるオキシダーゼを含むことが知られている。事実、このような酸化により抽出物が暗褐色で刺激臭を持つようになり、化粧品への使用が不適当なものになる。同様に、分子量が100000ダルトンを越えるラッカーゼが特に知られている。従って、得られた抽出物は、オキシダーゼ、特にポリフェノールオキシダーゼを除く任意の既知の分画法により分画することができる。例えば、本発明の抽出物は、100000ダルトンを越える分子

量を持つ分子を除去するために透析膜によって濾過することができる。選択的沈殿法により抽出物を分画することもできる。

【0014】他の方法によって酸化現象から保護することもできる。特に、抽出物を安定化させることもできる。本発明において任意の既知の安定化法を使用することができる。例えば、本発明の抽出物は、溶解した酸素を除去するために窒素をバーリングすることにより、あるいはそれにシステイン及び／又は硫黄誘導体を添加して0.5g／1～10g／1、好ましくは1g／1～2.5g／1の最終濃度にすることにより、安定化することができる。言うまでもなく、本発明に係る抽出物は分画しつつ安定化することができる。

【0015】抽出物はそれ自体が本発明の組成物の活性成分を構成することができる。本発明において使用することができる抽出物の一例は、実施例に記載する。本発明において使用することができる抽出物の量は、明らかに所望する効果に依存し、よって広範囲で変わりうる。量の目安を与えると、上述の抽出物は、組成物の全重量に対して0.01～20重量%の量、好ましくは組成物の全重量に対して0.1～5重量%の量で使用することができる。

【0016】本発明において使用することができる未分化植物細胞は、任意の既知の植物種から由来しうる。この点について、アキノタムラソウ(*Salvia*)、コレウス(*Coleus*)、マンネンロウ(*Rosmarinus*)、イチョウ(*Ginkgo*)、アサ(*Cannabis*)、イヌサフラン(*Colchicum*)、グロリオーサ(*Gloriosa*)、クサスギカズラ(*Asparagus*)、ダイズ(*Glycine*)、ウマゴヤシ(*Medicago*)、マンゴ(*Mungo*)、デイコ(*Erythrina*)、マツヨイグサ(*Oenothera*)、ケシ(*Papaver*)、アトローバ(*Atropa*)、チョウセンアサガオ(*Datura*)、ナス(*Solanum*)、ボラゴ(*Borago*)、モクセイソウ(*Reseda*)、アムソニア(*Amsonia*)、ニチニチソウ(*Catharanthus*)、ヤボランジ(*Pilocarpus*)、ジギタリス(*Digitalis*)、コフィア(*Coffea*)、カカオノキ(*Theobroma*)、ソケイ(*Jasminum*)、トウガラシ(*Capsicum*)及びアヤメ(*Iris*)の属を挙げることができる。イチョウ属、カカオノキ属、アキノタムラソウ属又はチョウセンアサガオ属の植物由来の未分化植物細胞が特に本発明において使用される。

【0017】言うまでもなく、本発明において使用する

#### ムラシゲ-スクレート培地：

スクレートマクロ元素

スクレートミクロ元素

スクレートビタミン

鉄／EDTA

$10^{-4}$ Mの2,4-ジクロロフェノキシ酢酸

$10^{-4}$ Mのキネチン

スクロース

寒天

ことができる未分化植物細胞の抽出物は、異なった植物の属から得られた及び／又は異なった植物材料から得られた未分化植物細胞の混合物由來のものとすることができる。

【0018】本発明の第2の主題は、生理学的に許容可能な媒体中に、ベリス属の細胞以外の未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物を含有することを特徴とするボディ衛生用組成物にある。ボディ衛生用組成物はデオドラント組成物でありうる。本発明の組成物は化粧品又は皮膚科学的組成物でありうる。本発明において、組成物は好ましくは化粧品組成物、特に局所適用用のものである。

【0019】本発明の主題は、また、ベリス属の細胞以外の未分化植物細胞の少なくとも1つの抽出物を含有する化粧品組成物を皮膚、毛髪及び／又は粘膜に適用することを特徴とする、臭気を抑えるための皮膚の美容処理方法にある。本発明の美容処理方法は、特に、これらの組成物の使用のための通常の技術に従って、上述の化粧品組成物を適用することにより、実施することができる。例えば、クリーム、ゲル、漿液、ローション、ミルク、シャンプー又は抗日光組成物の皮膚への適用である。

【0020】以下の実施例と組成物は、本発明を限定しないで例証するものである。組成物において、示した割合は重量基準のパーセントである。

#### 【0021】

【実施例】実施例1：丹参(タンジン：*Salvia miltiorrhiza*) (セージ)由来の未分化植物細胞の調製：葉を取り除いた後、植物を290g／1の濃度の飽和次亜塩素酸ナトリウム又はカルシウム溶液を用いて室温(25℃)で1～5分間かけて汚染除去した。組織を滅菌蒸留水ですすぎ、希釈エタノール溶液に入れた。汚染除去の終わりに滅菌蒸留水で3回洗浄した。

【0022】層流煙霧無菌箱での滅菌条件下で外植片を細切りし、ついでペトリ皿のムラシゲ-スクレート培地上に配した。一次カルスは2～5週以内に現れた。ついで、一次カルスを同じ培地で調製した新鮮な寒天上で継代培養した。継代培養を続けると、細胞が安定化し(外観、色彩等々)、場合によっては発酵槽で工業的に培養するため液体培地に移すことができる。

#### 【0023】

100.00ml
1.00ml
2.00ml
10.00ml
10.00ml
0.60ml
30.00g
8.00g

蒸留水  
殺菌前のpH

115又は121°Cで20~40分間の殺菌

【0024】

スクーグマクロ元素: mg/1

KNO <sub>3</sub>	1900
NH <sub>4</sub> NO <sub>3</sub>	1650
MgSO <sub>4</sub> ·7H <sub>2</sub> O	370
CaCl <sub>2</sub> ·2H <sub>2</sub> O	440
KH <sub>2</sub> PO <sub>4</sub>	170

【0025】

スクーグミクロ元素: mg/1

CuSO <sub>4</sub> ·5H <sub>2</sub> O	0.025
MnSO <sub>4</sub> ·1H <sub>2</sub> O	16.90
KI	0.83
NaMoO <sub>4</sub> ·2H <sub>2</sub> O	0.25
ZnSO <sub>4</sub> ·7H <sub>2</sub> O	10.60
H <sub>3</sub> BO <sub>3</sub>	6.20
CoCl <sub>2</sub> ·6H <sub>2</sub> O	0.025

【0026】

スクーグビタミン: mg/1

ミオイノシトール	100.00
ニコチン酸	0.50
ピリドキシン	0.50
チアミン	0.10
鉄/EDTA	
FeSO <sub>4</sub> ·7H <sub>2</sub> O	27.8
Na <sub>2</sub> EDTA	37.3

等級	0	1	2	3	4
強さ	ゼロ	僅か	中程度	強い	非常に強い

— 快不快評価:

【表2】

等級	非常に気持ちがよい
0	気持ちがよい
1	少し気持ちがよい
2	中間
3	僅かに不快
4	不快
5	非常に不快

二回目の評価は最初の評価の6時間後に実施することができる。

【0031】材料と方法: 4~6人の個人から得た混合したヒトの腋の下の汗のプールを熱的刺激(約80°C、20~30%の相対湿度で2時間のサウナ)により作り出した。新鮮な汗を、ドナーがサウナに入る前に各汗のドナーの耐水性衣服によって回収した。ついで、100mgの抽出物を、アルミニウムfoilにより内側を保

全体を1リットルにする量

5.8 UpH

【0027】実施例2: 抽出物の調製:

実施例1において得た安定化細胞10gを、細胞凝集体のサイズに応じて50~100μmゲージでの濾過により回収した。細胞を-20°Cでの遅い凍結下に配した。これは、大きな細胞内結晶の形成を促進し、極低温粉碎(フリーザー)により細胞を破壊する。解凍した細胞を4°Cに配し、ついで10mlの蒸留水中でポッターマシンで更に細かく粉碎した。2回の粉碎をこのようにして実施した。懸濁液中の材料を4°Cで10分間8000xGでの遠心分離により除去した。上清を直径7cmのワットマンG F/Fペーパーで予備濾過し、続いて0.2μmの濾過で懸濁液中の微粒子を除去した。

【0028】約12mlの直接使用できる抽出物を得た。このようにして得た生成物を凍結乾燥した。凍結乾燥後に約1gの抽出物(乾燥重量)を得た。0.1gの各抽出物を、新鮮な汗を1ml含む丸剤ボックスに配した。新鮮な汗を、ドナーがサウナに入る前に各汗のドナーの耐水性衣服によって回収した。

【0029】実施例3: 実施例1によって調製した未分化植物細胞の抽出物の抑制効果の嗅覚評価  
4人の訓練を受けた試験者によって評価を実施した。各試料の臭いの評価をランダムで行い、等級付けした。二つの評価基準と等級分けは次の通りである:

【0030】— 全体の強さ:

【表1】

護したストッパーを持つ30mlの白色ガラス製丸剤ボックス(25mmφの透孔)内に導入した。

【0032】1mlの新鮮な汗を各フラスコに導入した。全体を穏やかに振った。反応性ストリップを使用してpHを評価した。フラスコに栓をし、37°Cでインキュベートした。18時間のインキュベーション後に嗅覚評価を実施した。

【0033】臭気の強さと不快感が、十分に特定された活性剤を添加せずに最初に評価され必要なだけ何度も再評価された汗の試料に対して、位置付けされた。0.8mgのトリクロサン(静菌剤)を含む特定されていない効果のある対照並びに活性剤を含まないが特定されていない汗対照を一連の評価試料に加えた。

【0034】評価: 37°Cにサーモスタット制御されたインキュベータでの18時間のインキュベーション後にフラスコを取り出した。評価前にそれらを開けて通気煙霧戸箱に最小10分間配した。

結果: 各評価者により付された等級の平均を各抽出物に対して計算した。結果は、活性剤のない対照に対する強

さと各快不快等級の変動パーセントとして表される。得られた変動パーセントが大きくなるほど、抽出物の效能

は大きくなる。

【表3】

属	強さの阻害%	快不快の変動%
光の下で栽培したイチョウ	23.1	28.3
暗所で栽培したイチョウ	23.1	37.0
暗所で栽培したアキノタムラソウ	26.9	14.0
暗所で栽培したカカオ	37.9	15.6
光の下で栽培したチョウセンアサガオ	20.7	13.3

【0035】実施例4：本発明に係る組成物の実施例これらのは組成物は化粧品に一般的に使用される通常の方法

組成物1：デオドラントローション

パルミチン酸2-エチルヘキシル	35.00 g
シクロペンタジメチルシロキサン	6.60 g
ブチレングリコール	5.00 g
セージ抽出物	2.50 g
防腐剤	適量
脱塩水	全体を100.00 gにする量

【0036】

組成物2：デオドラントクリーム

セチルステアリルアルコール／30EO	
セチルステアリルアルコールの混合物	7.00 g
モノノジステアリン酸グリセリル	2.00 g
流動ワセリン	15.00 g
グリセロール	20.00 g
セージ抽出物	5.00 g
香料、防腐剤	適量
脱塩水	全体を100.00 gにする量

【0037】

組成物3：デオドラントミルク

パルミチン酸2-エチルヘキシル	35.00 g
グリセロール	2.00 g
セージ抽出物	3.00 g
架橋アクリル酸／アクリル酸C <sub>10</sub> -C <sub>30</sub>	
アルキルのコポリマー	0.10 g
トリエタノールアミン	0.10 g
小麦のアミノ酸の水溶液	1.00 g
防腐剤	適量
脱塩水	全体を100.00 gにする量

【0038】

組成物4：デオドラントゲル

ナトリウムベヘノイルラクチラート	10.00 g
グリセロール	2.00 g
セージ抽出物	2.50 g
リシノール酸亜鉛	1.00 g
ステアリン酸	8.40 g
水酸化ナトリウム	1.20 g
香料、染料、防腐剤	適量

11

脱塩水

12

全体を100.00gにする量

【0039】

組成物5：シリコーン中水型エマルション

シリコーンDC245フルイド(ダウコーニング)	6.60g
シリコーンDC5225C(ダウコーニング)	9.40g
エチルアルコール	11.00g
セージ抽出物	3.00g
プロピレングリコール	37.00g
香料、防腐剤	適量
脱塩水	全体を100.00gにする量

【0040】

組成物6：アルコール性デオドラントスティック

ステアリン酸	7.00g
水酸化ナトリウム	1.08g
ミリスチン酸イソプロピル	5.00g
セージ抽出物	2.50g
エチルアルコール	60.80g
プロピレングリコール	20.50g
香料	適量
脱塩水	全体を100.00gにする量

【0041】

組成物7：無水制汗剤スティック

ステアリルアルコール	22.00g
水素化ヒマシ油	5.00g
パルミチン酸イソプロピル	12.50g
無水アルミニウムヘキサクロリド	20.00g
セージ抽出物	0.50g
シクロペンタジメチルシロキサン	35.00g
タルク	5.00g

フロントページの続き

(51) Int.Cl. 7

A 61 K 35/78

識別記号

F I

テーマコード(参考)

A 61 K 35/78

Q

R

C

Z

A 61 P 17/00

// C 12 N 5/04

A 61 P 17/00

C 12 N 5/00

F